



2022 年
11 月 7 日

池坊短期大学図書館だより

第 13 号
山茶花（さざんか）
花言葉 困難に打ち勝つ



学生による「私の好きな本」紹介 第 4 弾！（幼児保育学科「基礎ゼミ」授業より）



今年も残すところ 2 か月・・・暖かい日は気持ちいい場所でお気に入りの本を持つての～んびり・・・はいかが？



『**文豪ストレイドッグス**』
著：朝霧カフカ 絵：春河 35 角川書店

史実の文豪をキャラクター化して異能力バトルさせるお話で、それぞれの能力の名前が文豪が書いた話の題名だったり、史実の文豪の人生を基にしてキャラクターが作られて物語が進んで行くうちにキャラクターの掘り下げが徐々に深くなっていきます。史実の文豪が書いた話の中に出てきた言葉や一節が物語中にでてきたりと関連はとても深いです。原作が漫画から始まって、小説にも進んでアニメ化、映画化にまで進んだ本です。（上田 史奈）

所蔵情報：『太宰治の入社試験』（角川ビーンズ文庫）が 11 月末に入る予定です！『もし文豪たちがカブ焼きそばの作り方を書いたら』（913.7-かん）などを読んでしばらくお待ちください。



『**果てしなく美しい日本**』
著：ドナルド・キーン 訳：足立康 講談社学術文庫

日本の文化とは、何だろう。日本人であるならば一度は考えたことがあるのではないだろうか。しかし、日本で生まれ育った日本人が考える日本文化を説明することは、難しいと考える。客観的に日本文化を捉えるということを日常的に行っていないからではないだろうか。著者のドナルド・キーン氏は、アメリカ人の視点から日本文化を捉えている。晩年は日本に帰化し、日本人として生きたキーン氏から見た日本が描かれている。

（高田 貴史）

所蔵情報：11 月末に図書館に入る予定です！



『**また、同じ夢を見ていた**』著：住野よる 双葉文庫

この本の主題は「幸せとは何か」が掲げられています。まずそれについて考えさせられます。同時に主人公の女の子が様々な「友達」と話していく中で温かい気持ちになっていきます。私は「悲しくもなんともないのに泣ける」小説だと思いました。また、全体に張られた伏線と最後にそれら全ての謎が解ける快感、そしてちらほら登場する言葉遊びなども何度も読んでいく中で味わえます。私が中学生のときから好きな本です。（井坂 彩乃）

所蔵情報：請求記号/913.65-スミ/配架場所/文庫書架 登録番号/00062760

同じ作者の『君の臍臓をたべたい』（913.6 スミ）もおすすめです。

『**37.5℃の涙**』著：椎名チカ 小学館



病児保育士の桃子は今日も体調が悪く親が仕事で看病できないかわりに毎日色々な子供のおうちで看病します。新米保育士の桃子にふりかかるのは、親と離れてずっと泣く子供や過保護な親。固定概念に捉われ子が風邪をひいたら看病するのは母親だと言う義母が現れたり保育以外の事が起きます。今日も桃子は同じ職場の仲間たちと一つ一つ問題を解決し、たくさんの愛情で保育を行います。（杉下 星来）

所蔵情報：11 月末に入る予定です！

『**ライ麦畑でつかまえて**』著：J.D.サリンジャー 訳：野崎孝 白水 U ブック



この本は、高校を放校となった 17 歳のホールデン・コールフィールドという少年がクリスマス前のニューヨークの街をめぐるとい物語です。私は元々、青春小説に興味があり、図書館で沢山の本を読み漁っていた時に初めの一文で惚れ込んでしまう程に好みの小説でした。口語的な文体で社会の欺瞞に対する不満を持つ少年が描かれています。小説が好きな方は絶対に読んで頂きたいです。（東山 みなみ）

所蔵情報：請求記号/933.913 配架場所/一般書架 登録番号/00052894

『**「手紙屋」蛍雪篇～私の受験勉強を変えた十通の手紙～**』



著：喜多川泰 ディスカヴァー・トゥエンティワン

私は、この本に中学三年生の受験前に出会いました。文中で「しなければならぬことをやりたいことに変える」というのが出てきます。その文を読んで私は学校からの課題はしなければならぬと思う度に嫌になってしまうことが多いと感じて、とらえ方を少し変えました。学校からのたくさんの課題は、自分の夢を実現させるための過程であり、夢を実現するために頑張りたいと思えました。そして日々成長するきっかけになった本です。（和田 美音波）

所蔵情報：受験勉強篇と、就職活動篇が 11 月末に入る予定です！

図書館では本の紹介文やイラスト、図書を使った授業の紹介など、引き続き記事を募集しています！

日本の伝統文化発信⑨～ちょっと教養のコーナー

～本学所蔵の貴重図書より～



図書館からのお知らせ

安立坊周玉花形立花（あんりゅうぼうしゅうぎよくはながたりつか）



本書は元禄二年(1689)に、大坂で活躍した町人であった藤掛似水（ふじかけすい）が伝授したと考えられる立花の伝書です。この本の最後に師であった安立坊周玉から、藤掛似水に写されて伝授されたことが書かれています。安立坊周玉（あんりゅうぼうしゅうぎよく）は 2 代専好の弟子で、三重県津市の高田の専修寺（せんじゅじ）

派の僧侶で、幼かった池坊専養の補佐をつとめた人物です。

その内容は立花の花形を四十八瓶の図として、水仙・荷葉・さくらなどの「一色」「一草」の図や、「二ツ真」「釣船」「筒花」といった花型が書かれています。なかには、実際に生けられた作品の図も含まれています。

ここにあげた菊一色の図も、中興の祖専好（2 代専好）が、「小室御所（おむろごしょ）」（仁和寺）で制作したものをとりあげています。この本は、もとは巻物の形でしたが、現在は保存のために継ぎ目のところで切られて分断してしまいました。継ぎ目には「柿葉文庫」の黒印が押されています。「柿葉文庫」は、本学の教員であった岡田幸三氏の所蔵していた花道文献につけられた名前です。（松本公一）

図書館ミニミニ情報～登録番号、請求記号ってなあに？～

登録番号とは本や雑誌に 1 冊ずつ付けられた番号です。図書館で貼られたバーコードの番号ですね。同じ本が 2 冊あってもそれぞれに異なる番号が付けられているので、「この本！」と確定することができます。図書館では貸出・返却は登録番号＝バーコードを読んで処理しています。



請求記号とは分類記号ともいい、本の内容によって付けられています。本の背に貼られたラベルがそうです。たとえば花茶香は 7、文学は 9、歴史は 2 から始まる番号が付けられ、その番号順に配架されています。本を探す時にとても重要な本の住所です。

絵本の背ラベルはタイトルの始めの文字です。



雑誌の譲渡会は 11 月 10 日までです。まだ見ていない人は掘り出し物がないかぜひのぞいてみてくださいね。図書の検索は便利な QR コードも利用できます。資料の検索にご利用ください。



<http://www.lib-eye.net/ikenobo-c/>